

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

高須 中学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
数学A	全国平均正答率を下回っている。
数学B	全国平均正答率を下回っている。

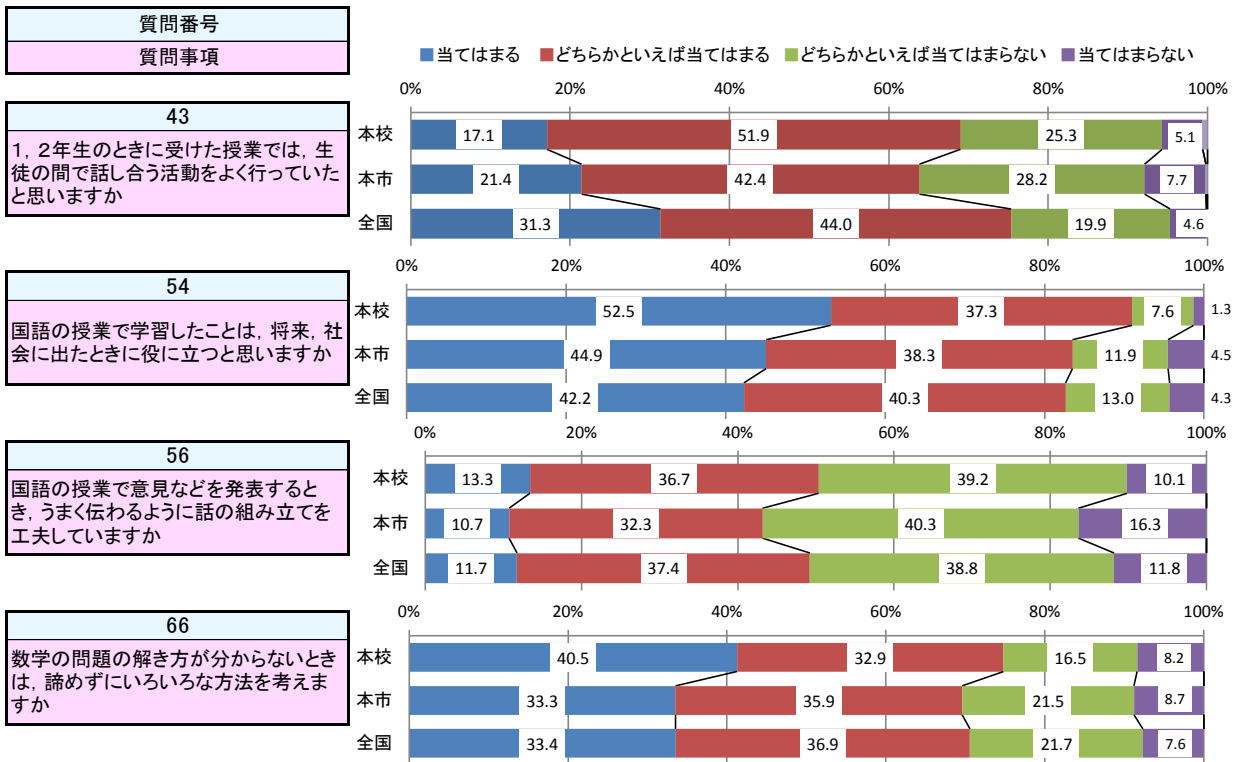
(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	数学A	数学B
平成24年度	本市	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国	75.1	63.3	62.1	49.3
平成25年度	本市	74.7	65	60.3	38.2
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
平成26年度	本市	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国	79.4	51	67.4	59.8

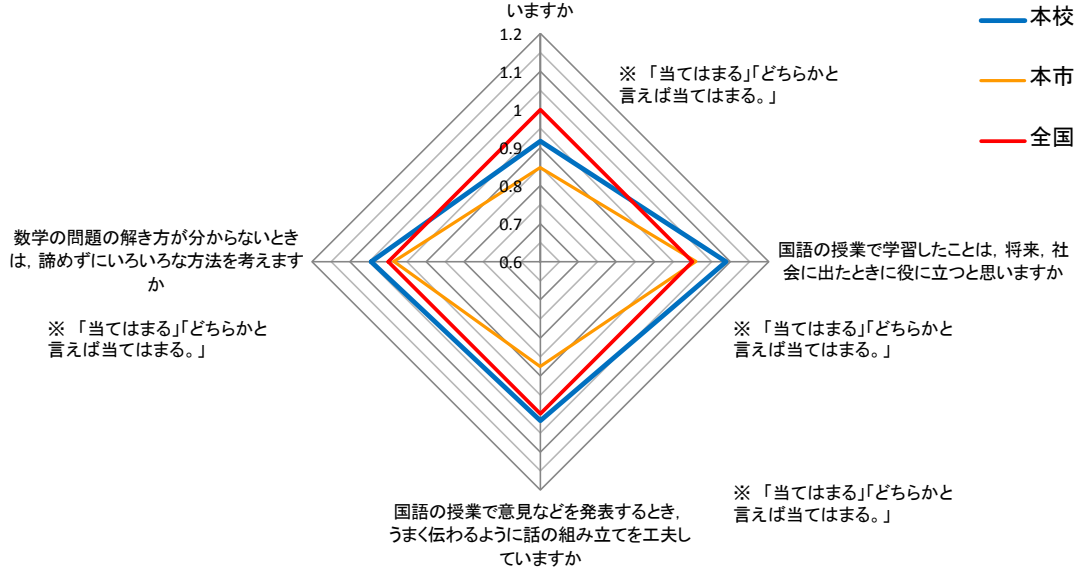
② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率を下回っているが、読む能力を問う問題は比較的できていた。 ・書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	・登場人物の心情や行動に注意して読んだり、行動の意味を考えたりして内容を理解する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	辞書を活用して語句の意味を適切に書く問題は無解答率が高かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っていた。 ・文章の内容について根拠を明確にして自分の考えを書く問題に課題がある。
	よくできた問題	複数の資料から必要な情報を読み取る問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	書く能力を問う問題は正答率が低く、無解答率も高かった。
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていた。領域別に見ても4領域ともに全国平均を下回り、特に関数の領域が平均との差が最も大きかった。無解答率に関しては関数、図形の順に高くなっている。
	よくできた問題	分数の除去の計算、相対度数を求める問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	関数領域の問題全般と、図形領域の証明に関する問題の正答率が低かった。
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っていた。領域別に見ても4領域ともに全国平均を下回り、数学A同様に関数の領域が平均との差が最も大きかった。特に証明の記述は正答率が低く、無解答率も高い。
	よくできた問題	与えられた図から情報を読み取り、位置関係を的確に捉える問題は、全国平均は下回ったものの正答率が高かった。
	努力が必要な問題	図形の証明、グラフを読み取って解釈する問題の無解答率が高く、正答率が極端に低かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする), 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

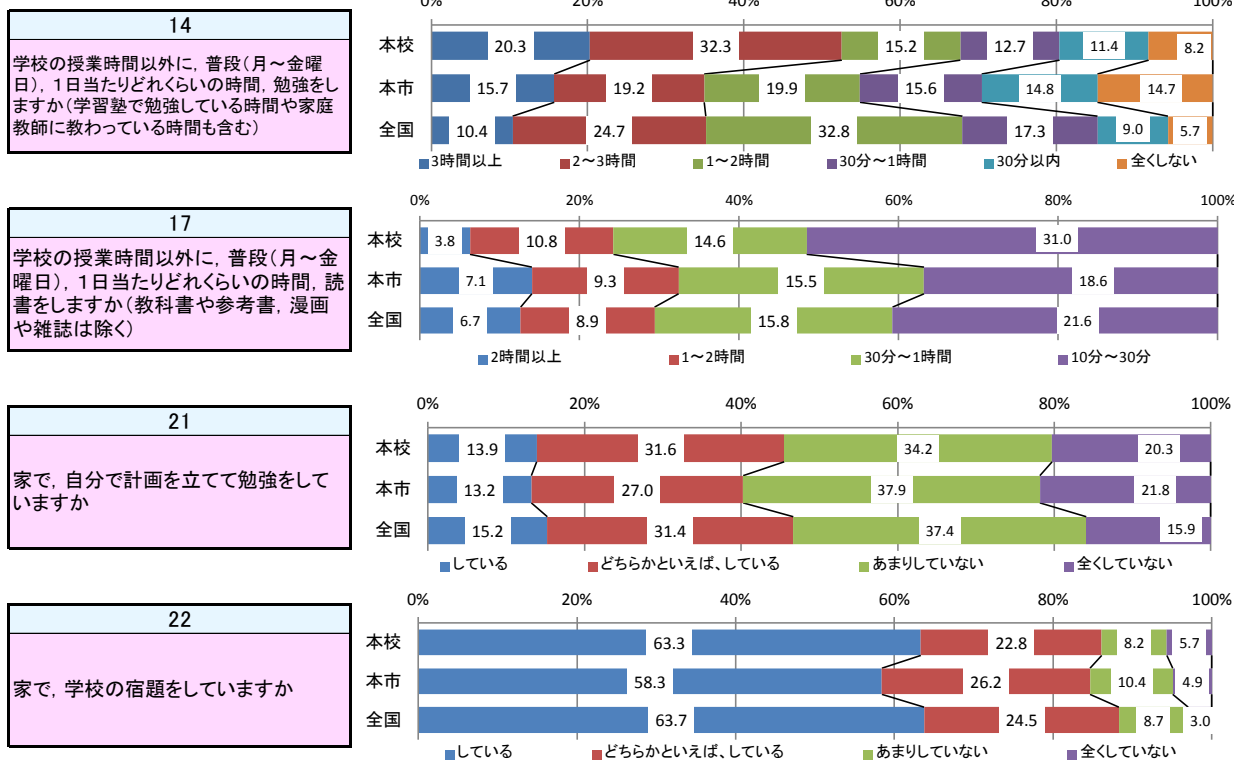


⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

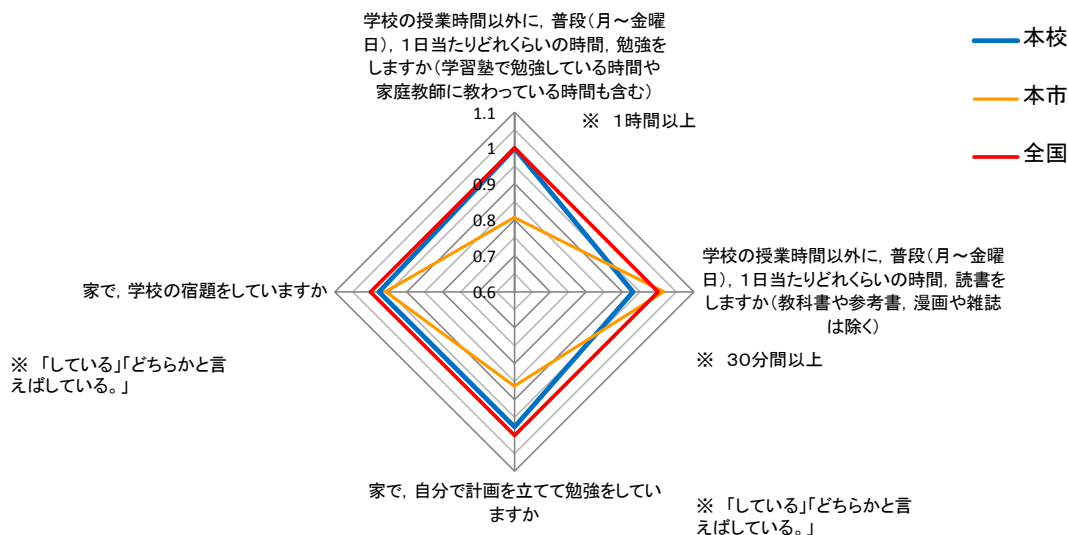
- ・話し合う活動をよく行っていたと答えていた生徒は、本校で取り組んできた対人スキルアップの授業研究の取組で、年々確実に増え、本市の平均を上回っている。今後もグループでの調べ学習や話し合いの活動を教科の授業等に取りこんでいく。
- ・同様に対人スキルアップの取組で、国語の教科にも相手に伝わるような話し方の工夫をしている生徒が増えている。
- ・数学の問題をあきらめずにいろいろな方法を考える生徒の数は、全国平均を上回っているが、それが平均正答率の高さにつながっていないのが課題である。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



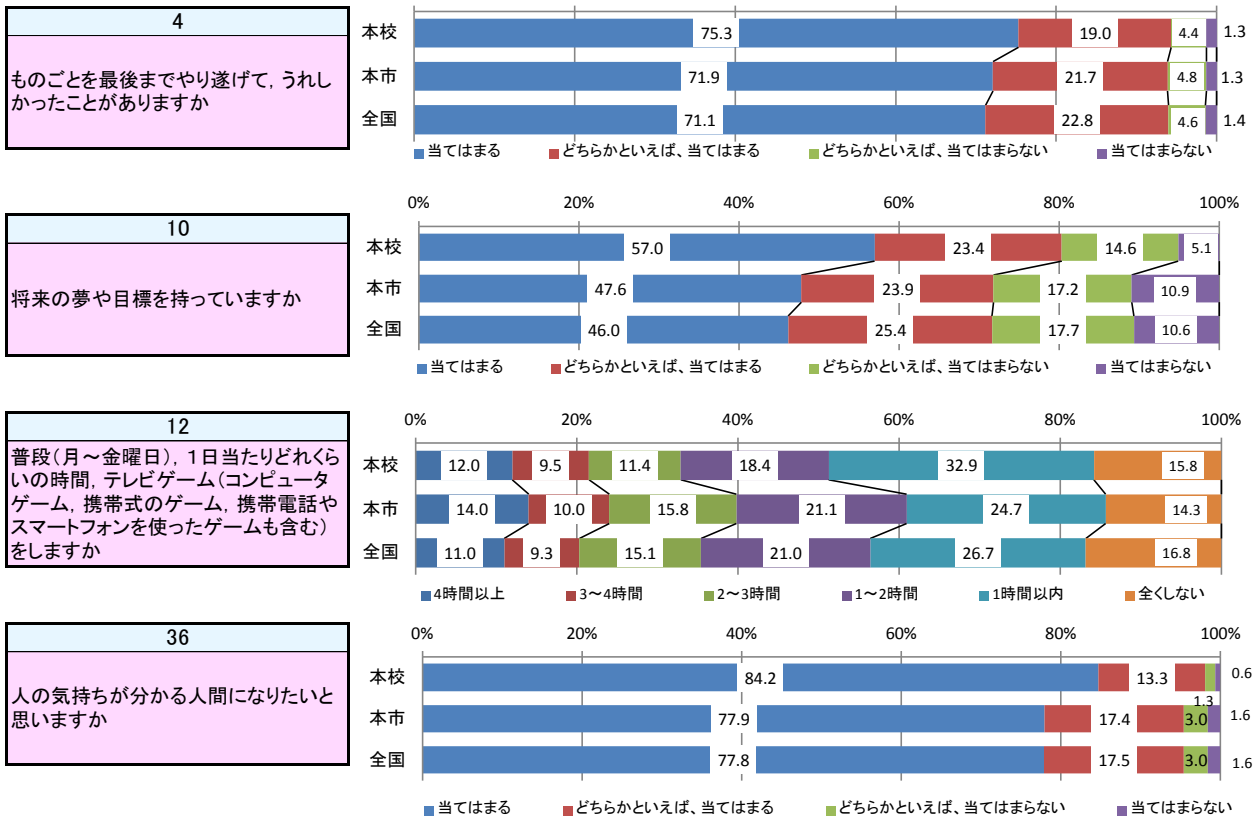
② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



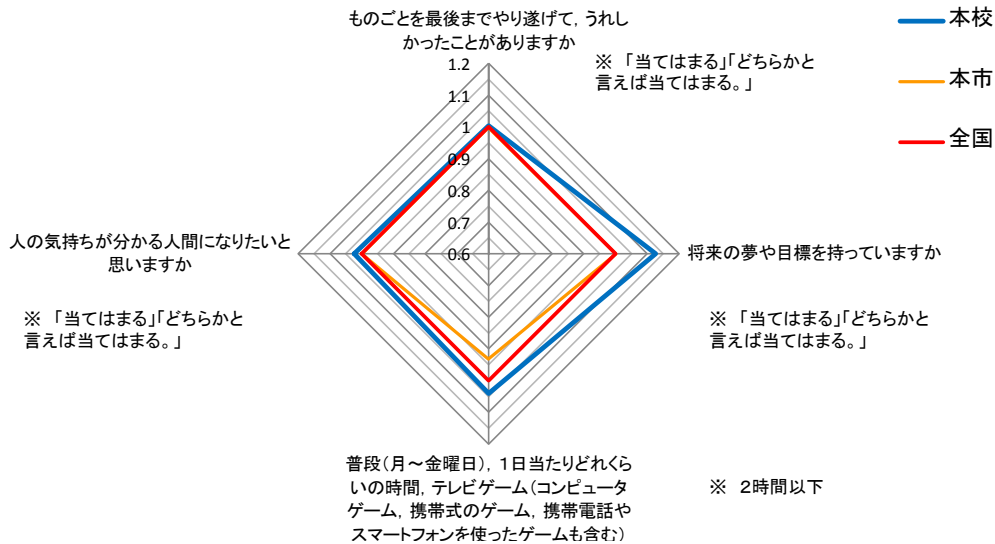
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・学校の授業以外の普段の勉強時間は全国より長い。2時間以上が勉強している生徒が半数をこえている。塾や家庭教師のもとで学習している人はほぼ全国なみで6割ほどであるので、塾のないときもやっている生徒が多い。
- ・学校の授業の予習や復習をしているかどうかでは、予習では全国34.2%がしているに対し、29.7%である。復習は全国50.4%がしているのに対して、42.4%である。宿題に追われて自学自習の時間が少ない。
- ・全く自分で計画を立てて勉強をしていない生徒も全国に比べて多い。今後は以上の結果を踏まえて、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ・テレビ等の接触時間は全国とおなじくらいだが、テレビゲーム等の時間は全国に比べて少し高めになっている。特に3時間以上の生徒が増えてきている。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことが多い生徒が年々増えてきており、いずれも全国をこえている。
- ・将来の夢や目標を持っている生徒も年々増え全国をこえている。今後はそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけさせることが必要である。
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいという生徒も年々増えている。このことは対人スキルアップ授業の取組の成果がよく表れていると考えられる。この取組は他の生活習慣全般にも好影響を与えていることが確認できる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎学力向上に関する職員会議や教科部会の定期的な実施
 - ・対人スキルアップを生かした教科での授業の職員研修
 - ・授業改善ハンドブック等を使用しての授業研究についての話し合い ・授業実践研究
- ◎学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝読書の実施
 - ・国数英で定期的に小テストを実施する。
 - ・授業の導入として、復習テストの実施。
 - ・定期考査前に質問教室の実施。
 - ・小中連携サポーター(計画的な配置、活動補助、プリント整備)
- 学力向上のための特設時間の取組内容計画表作成(学力向上推進委員会・各学年)
- ◎「書く」ことを習慣化
 - ・学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。
 - ・学習のめあてなど、ノートにきちんと書かせる。
 - ・行事の度に作文を書かせる。
 - ・総合的な時間に新聞作成をする。
 - ・夏休み、冬休みのしおりに三行日記を書く。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)
 - ・過去問題、アシストシート、ワーク等を長期休暇中の宿題として取り入れる。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック(ダイジェスト版)」の活用
 - ・毎週、漢字ノート、読解スキルを定期的に宿題として出す。
 - ・家庭学習時間の設定
- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ通知
 - ・学校だより
 - ・HPにも掲載